

「こんなときは神経内科に行こう!」

パーキンソン病と脳・神経の病気を知るセミナー in 徳島

6月21日(日) 13:00~15:00 ふれあい健康館

パーキンソン病は、脳の神経伝達に欠かせない「ドパミン」という物質が不足することで、ふるえ、筋肉のこわばり、動作の緩慢、姿勢反射障害などを引き起こす病気です。50~60代で発症することが多く、ほかの病気でも良く似た症状を示すことがあり、なかなかパーキンソン病と診断がつかないケースも見受けられます。このセミナーでは、パーキンソン病をはじめとする脳や神経の病気について、その専門家である神経内科のお医者さんが、皆さんにわかりやすく解説します。

日時:6月21日(日) 13:00~15:00

会場:ふれあい健康館 (JR徳島駅より市営バスをご利用ください)

神経内科とは?

神経内科は脳、脊髄、神経、筋肉などの病気を発見・治療します。脳や体の一部分だけを診るのではなく、患者さんの脳の働き、五感、体とその動きなど、全身をしっかりと診察して、そこに隠れる病気を見つけるのが神経内科医で、他の診療科とも協力して、健康を取り戻す道を探ります。

神経内科が扱うおもな病気

パーキンソン病

パーキンソン病は原因不明の難病と言われましたが、研究が進み、早期に発見して治療をスタートすれば、運動機能の著しい低下を抑えることができます。神経内科医は豊富な知識から治療法を示唆します。

てんかん

日本には子どもから高齢者まで約100万人のてんかん患者さんがいます。神経内科では患者さんの症状や発作のようすに合わせて治療を行い、70~80%は症状がなくなり、生活の質を損なうことなく普通の生活が送れるようしております。

頭痛

頭痛は誰でも経験したことのある病気ですが、慢性化すると自分・社会・家族にまでダメージを与える社会的損失の大きい病気です。「頭痛から解放されたい!」と思ったら、一度神経内科を受診してください。

認知症

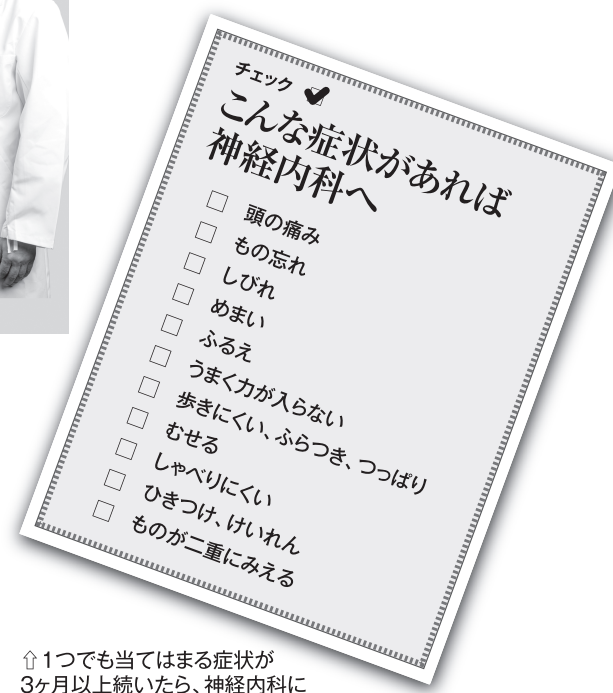
近年、画像・診断マーカーなどで早期発見でき、治療も開発された認知症。神経内科ではトータルに全身を管理して患者さんと家族とのコミュニケーションを大切にすることが心がけています。

脳卒中

日本人の5人に1人が脳卒中を発症し、その4分の3以上は内科的な治療が必要な脳梗塞です。神経内科では内科的治療はもちろん、脳卒中を未然に防ぐ検査や再発予防対策を行っています。



(上段左より)山口大学 神田隆 教授 / 広島大学 松本昌泰 教授 / 札幌医科大学 下濱俊 教授 / 大阪大学 望月秀樹 教授 (中段左より) 日本大学 亀井聡 教授 / 近畿大学 楠進 教授 / 京都大学 高橋良輔 教授 / 北海道大学 佐々木秀直 教授 / 岡山大学 阿部康二 教授 (下段左より) 国立精神・神経医療研究センター病院 水澤英洋 院長 (東京医科歯科大学 特任・名誉教授) / 新潟大学 西澤正豊 教授 / 東京大学 辻省次 教授 / 名古屋大学 祖父江元 特任教授



↑1つでも当てはまる症状が3ヶ月以上続いたら、神経内科にご相談ください。

セミナー講師の先生からメッセージ

6月21日に開催される「こんなときは神経内科に行こう! パーキンソン病と脳・神経の病気を知るセミナー in 徳島」講師の先生方にお話を聞きました。

脳と神経の役割と神経内科

国立精神・神経医療研究センター病院 院長
(東京医科歯科大学 特任・名誉教授)

水澤 英洋先生

脳、脊髄、末梢神経は、まとめて神経あるいは神経系とも呼ばれ、骨格筋や平滑筋とともに、人の持つあらゆる機能、活動、行動をコントロールしています。人間としての尊厳や個性に関わる精神~高次神経機能から、歩く・走るなどの運動機能、視覚・聴覚・温度覚・痛覚・触覚といった感覚機能はもちろん、呼吸・消化・循環・発汗など自律神経機能に至るまでの全てが同時に上手く調和して機能できるのは神経の働きによるものです。このような神経系の病気は300種類以上あると言われ、その診断・治療するのが神経内科で、近年、分子・遺伝子レベルの研究が飛躍的に進歩したことにより、脳と神経の病気も治療法が開発されつつあります。



神経疾患とパーキンソン病の現状

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
感覚情報医学講座 臨床神経科学分野・教授

梶 龍児先生

神経疾患はとても難しい治らない病気ばかりだという印象を持っている方が多いのではないのでしょうか? 確かにいろいろな臓器の病気が遺伝子レベルから解明される中、脳のメカニズムだけは十分に明らかにされていません。しかし、ここ数十年の脳科学の進歩により、治療可能な神経内科疾患や、神経難病への有効な治療法は日々増えております。特にパーキンソン病は、手足のふるえや歩行障害が進行し、薬が効かなくなればQOLの低下を防げない病気でしたが、治療薬の種類も増え、脳深部にペースメーカーのような電極を埋め込むDBS治療などで症状が改善する可能性があります。



パーキンソン病の診断法について

岡山旭東病院 神経内科・部長

柏原 健一先生

パーキンソン病の進み方は非常にゆっくりで、早期に発見して治療を開始すれば、薬物療法によるコントロールも十分に可能です。神経内科医は早期発見のために、患者さんをじっくりと診察し、静止時に意思とは無関係に生じる手のふるえや、筋肉のこわばり、運動の遅さ、動きづらさなどのパーキンソン病に特有の運動障害、さらに便秘、睡眠障害、幻覚、うつ症状などがあるかを確かめます。最終的にはMRI(磁気共鳴画像装置)で他の病気による障害がないことを確認し、確定診断をします。動ける体を維持すること、前向きに、楽しく暮らしていくという気持ちで行動することが、さまざまな症状の改善につながります。



パーキンソン病の治療について

愛媛大学大学院 医学系研究科
薬物療法・神経内科学・教授

野元 正弘先生

薬の効果は人により異なり、服用後の血中濃度には10倍以上の個人差があります。私たちは、神経内科の治療薬をテーマとする講座として、個人差に合わせたオーダーメイド治療を実践し、一人一人の患者さんに有効な治療法を提案しています。パーキンソン病は脳の神経が変性する病気の中ではアルツハイマー病に次いで患者数が多い病気です。しかし様々な治療薬が開発されており、それらをうまく組み合わせることで、症状をうまくコントロールすることができます。薬の効き方や副作用に関しては、患者さん自身しかわかりません。患者さんの話を聞き、それを考慮しながら、最適な治療薬を選ぶのが神経内科医の大切な役割の一つです。



「こんなときは神経内科に行こう!」パーキンソン病と脳・神経の病気を知るセミナー in 徳島

日時:6月21日(日) 13:00~15:00

会場:ふれあい健康館(徳島市沖浜東2-16)

講師: 水澤 英洋先生 国立精神・神経医療研究センター病院 院長
(東京医科歯科大学 特任・名誉教授)
梶 龍児先生 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
感覚情報医学講座 臨床神経科学分野・教授
柏原 健一先生 岡山旭東病院 神経内科・部長
野元 正弘先生 愛媛大学大学院 医学系研究科
薬物療法・神経内科学・教授

共催: 神経内科フォーラム グラクソ・スミスクライン株式会社
後援: 一般社団法人 日本神経学会 (注) 神経内科フォーラムは神経内科の認知・啓発活動を行う任意団体です。

プログラム

13:00~13:25 神経内科の紹介(梶 龍児先生)
13:25~13:50 パーキンソン病とその診断法について(柏原 健一先生)
14:00~14:25 パーキンソン病の治療について(野元 正弘先生)
14:30~15:00 パーキンソン病Q&A(司会:水澤 英洋先生)

◆申し込み方法

お名前・ご住所・お電話番号・年齢・性別をご記入の上、FAXまたは郵送でお申し込みください。ホームページからお申し込みいただけます。先着順で参加証を郵送しますのでお間違いのないようご記入ください。

ファックスの場合 FAX 03-5550-6550

郵送の場合 〒104-8176 東京都中央区銀座7-13-20

(株)日本経済社内

「こんなときは神経内科に行こう! 徳島セミナー」係宛

*個人情報厳重に管理し、本セミナーの案内状の発送以外の目的では使用いたしません。

ホームページ:「神経内科フォーラム」で検索してください。

<http://www.neurology-forum.org/>

◆お問い合わせ先 TEL 03-5550-6263(平日10:00~16:00) 【締め切り】6月12日必着(先着順で定員になり次第締め切らせていただきます)

グラクソ・スミスクライン株式会社

〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15 GSKビル
<http://glaxosmithkline.co.jp>

